

枚方公済病院 呼吸器外科のご紹介

呼吸器外科では令和7年1月より肺癌に対する内視鏡手術を1500例以上経験した呼吸器外科常勤医が着任し肺癌診療を再開しています。現時点で呼吸器外科は常勤1名ですが、京都大学からの非常勤医師の御支援を受け胸腔鏡手術を中心に行っております。胸腔鏡手術といえば3つ程度の創部から行うのが通常でしたが、近年では限られた施設において創部が1つの単孔式胸腔鏡手術が行われ、当院でも積極的に取り入れております。

治療実績

令和7年1年間の手術症例は64例(原発性肺癌26例、良性腫瘍3例、転移性肺腫瘍4例、縦隔腫瘍5例、気胸23例、膿胸1例、その他2例)でした。患者さんは特に大きな合併症なく、早期(悪性腫瘍手術に関しては術後平均4.9日)に退院されています。

診療における強み

現時点で肺癌術後に再発を認めておりません。1年未満の観察期間であり、まだまだ追跡延長が必要な段階ですが、個人としては、手術症例を少しでも増やしたい気持ちや困難な症例にチャレンジしたいなどの外科医にありがちな気持ちを排除し、冷静に手術適応を判定できていると自負しております。これは当院に一般の市中病院では珍しい腫瘍内科があること、さらに呼吸器内科専門医の常勤医が3名もいることで、進行肺癌の症例では安心して化学療法などを任せられる環境にあることが関連していると考えます。週1回多職種も含めて腫瘍内科・呼吸器内科と合同カンファレンスを行っており、さらに各科の敷居の低い病院であるため、適宜迅速に各科との相談を行える環境にあります。肺癌患者さんは手術をして病変がなくなれば治療が終わりではありません。術後のADL低下などで不安や不自由に苛まれることや再発することもありますし、最終的に積極的治療が困難になることもあります。まさに、この時に病院の総合力が問われると思っております。当院では呼吸器外科単独ではなく肺癌治療をおこなうチームとして各診療科だけでなく緩和チーム・リハビリテーションなどコメディカルも含め一丸となり、患者さんの病状や気持ちに寄り添った診療を行うことを目標としております。

湯浅 樹
ゆあさ いつき

(京都大学 2015年卒業
呼吸器外科)

安川 元章
やすかわ もとあき

(奈良県立医科大学
1998年卒業
呼吸器外科)

地域医療連携室 (072)808-0010

(月火金) 8:30-20:00、
(水木) 8:30-17:15、(土) 9:00-13:00)

夜間休日のご連絡 ▶▶▶ 病院代表 (072)858-8233